

令和3年度 総社市立池田小学校 学校評価資料

池田小学校

様式【学校評価資料】

学校経営目標	具体的計画	令和3年度の達成基準	A.達成している B.概ね達成している C.あまり達成していない D.達成していない				自己評価(最終)			
			自己評価(中間)		自己評価(最終)		自己評価(最終)		自己評価(最終)	
			達成状況	評価	達成状況	評価	達成状況	評価	達成状況	評価
(学 確 かな ロ ソ ジ カ エ の ク 育 成 )	基礎学力の定着と自分の考えをもち、表現できる児童を育成する。	○授業は分かりやすい・分りやすい授業を心がけている と回答する児童・保護者・教職員が80%以上 ○「進んで自分の考えをつたえることができる」と回答する児童・保護者・教職員が94.5%以上	○「授業は分かりやすい・分りやすい授業を心がけている」 児童100%・保護者100%・教職員100%	C	・1学期からの取組を継続。 ○「授業は分かりやすい・分りやすい授業を心がけている」 児童100%・保護者100%・教職員100% ○「進んで自分の考えをつたえることができる」 児童99.3%・保護者95%・教職員80%	○「授業は分かりやすい・分りやすい授業を心がけている」 児童100%・保護者100%・教職員100% ○「進んで自分の考えをつたえることができる」 児童92.6%・保護者89.3%・教職員80%	A	・朝学習(15分)の時間に基礎学習(音読・漢字・計算)の反復を行い、基礎学力の定着を図ることができた。 ・授業を通して、児童が自分の考えをもち、表現できる力を付けつた。今後も、普段の授業や生活の中で、自分の考えをもち、伝える機会を意図的につくっていく。	・自己評価は適切である。 ・中間で教職員が厳しく評価したため、危機感をもって対応できた。教職員の努力が見られる。 ・自分の考えを相手に伝えることは大事である。大勢の中で、表現する場面も出てくる。中学校を見据えて重要な部分である。	
	家庭学習の習慣化を図る。	○「家庭学習にきちんと取り組んでいる(低20分・中40分・高60分)」と回答する児童・保護者・教職員が80%以上 ○「家庭学習の習慣化を図るよう内容を工夫している」と回答する教職員が80%以上	○「家庭学習にきちんと取り組んでいる」 児童100%・保護者100% ○「家庭学習の習慣化を図るよう内容を工夫している」 教職員90.9%	B	・1学期からの取組を継続。 ・自主学習ノートが1冊終了した時に頑張った1ページを開いて写真撮影し、意欲付けを図る。	○「家庭学習にきちんと取り組んでいる」 児童96.3%・保護者82.1% ○「家庭学習の習慣化を図るよう内容を工夫している」 教職員100%	A	・メディアコントロール週間に合わせて、時間の使い方の指導の中で家庭学習についての指導を行っていく。(内容・時間・取り組み方など) ・自己評価は適切である。 ・教職員の自己評価も上がり、内容の工夫も意識して行っている。		
	読書活動を推進する。	○「読書が好きだ」と回答する児童が80%以上 ○「積極的な図書の活用や読書習慣がつく活動に努めている」と回答する保護者・教職員が80%以上	○「読書が好きだ」 児童96.4% ○「積極的な図書の活用や読書習慣がつく活動に努めている」 保護者100%・教職員100%	A	○「読書が好きだ」 児童85.2% ○「積極的な図書の活用や読書習慣がつく活動に努めている」 保護者100%・教職員90%	A	・家庭学習で、音読カードに位置付けて読書を行うなど、家庭での読書活動の推進を図る。 ・読書させるための努力、工夫が見られる。 ・読書が好きでない児童4名への対応が必要である。			
(心 豊 かな ロ ソ ジ カ エ の ク 育 成 )	3つの木(気)「元気・やる気・根気」を見つける活動を通して、思いやり心を育成する。 【心優しい子供】	○3つの木(気)の葉を書く枚数が、毎学期400枚以上 ○「いじめや仲間はずれがなくなると回答する児童」が80%以上 ○「友だちやグループで活動する授業は楽しい」と回答する児童が80%以上	○3つの木(気)の葉を書く枚数1学期…403枚 ○「いじめや仲間はずれがなくなると回答する児童」が81.8% ○「友だちやグループで活動する授業は楽しい」と回答する児童100%	A	・「遊びに誘う方法」や「遊びに入れてもらう方法」を指導し、実践できるようにする。 ・3つの木(気)を書く時間を、帰りの会等でとり、振り返りさせる。 ・「いじめや仲間はずれがなくなると回答する児童」が100%・保護者100%・教職員100%	○3つの木(気)の葉を書く枚数2学期…425枚。 ○「いじめや仲間はずれがなくなると回答する児童」が100%・保護者100%・教職員100%	・友達の頑張る姿を見つけ、3つの木(気)の葉に書く児童が増えた。友達への思いやりのある声掛けを奨励し、今後も実践できるようにする。 ・全校やなかよし班(縦割り班)での行事や活動により、児童一人一人が活躍する場面が増えた。特に、企画や進行を行う高学年の児童を育て、達成感を味わわせることができた。今後もコロナの状況を見て縦割り班活動を継続する。	・自己評価は適切である。 ・思いやりのある児童が多く、いじめや仲間はずれはないが、学校が楽しいと感じていない児童も2名いる。池田小だから学校に来ることができない児童もいるようである。 ・自己評価は適切である。 ・学校の活動が増えたことで、子どもたちの表情が良く、話題も増えたようである。		
	異学年、異校種の交流による学びやピアサポートを充実させ、上学年の自覚を育むとともに、達成感を味わわせる。 【心優しい子供】	○「異学年、異校種の交流による学びやピアサポートを充実させ、上学年の自覚を育むとともに、達成感を味わわせるよう努めている」と回答する児童が80%以上	○「異学年、異校種の交流による学びやピアサポートを充実させ、上学年の自覚を育むとともに、達成感を味わわせるよう努めている」と回答する児童が80%以上	A	・「大学生と遊ぼうデー」がコロナの関係で未実施なので、できるようにすれば実施する。 ・池田レコードに挑戦するよう促し、挑戦した児童を称賞する。 ・「英語で話したり、読んだり、書いたりするのが好き・外国語活動や英語の学習に意図的に取り組んでいる」 児童92.9%・教職員100%	○「大学生と遊ぼうデー」の実施により、教えてもらった運動遊びを、休み時間に自分たちで行い積極的に体を動かす姿が見られた。今後も、継続して実施する。 ・「イングリッシュタイム」や「池田イングリッシュタウン」で、学習した英語を積極的に使っており、会話したり、発表したりする場が、英語が使える場を意図的につくってほしい。	・自己評価は適切である。 ・大学生が関わってくれて、良い経験ができています。 ・継続して行っているのは良い。活動をアピールする場があればいいのでは。 ・英語が使える場を意図的につくってほしい。			
	体育・英語特区としての特色ある取組を通して、児童の自信につなげる。	○運動をするのが好き・英語で話したり、読んだり、書いたりするのが好きと回答した児童が80%以上 ○「体育的な活動や体育科の学習・外国語活動や英語の学習に意図的に取り組んでいる」と回答した教職員が80%以上	○運動をするのが好き・体育的な活動や体育科の学習に意図的に取り組んでいる」 児童92.9%・教職員90.9% ○「英語で話したり、読んだり、書いたりするのが好き・外国語活動や英語の学習に意図的に取り組んでいる」 児童92.9%・教職員100%	A	○「大学生と遊ぼうデー」の実施により、教えてもらった運動遊びを、休み時間に自分たちで行い積極的に体を動かす姿が見られた。今後も、継続して実施する。 ・「イングリッシュタイム」や「池田イングリッシュタウン」で、学習した英語を積極的に使っており、会話したり、発表したりする場が、英語が使える場を意図的につくってほしい。	・自己評価は適切である。 ・大学生が関わってくれて、良い経験ができています。 ・継続して行っているのは良い。活動をアピールする場があればいいのでは。 ・英語が使える場を意図的につくってほしい。				
(健 やかな 体 の ク 育 成 )	基本的な生活習慣の見直し、あいさつ運動を推進する。 【礼儀正しい子供】	○「よい生活習慣が身についている」と回答した児童・保護者・教職員が80%以上 ○「よりよい生活習慣が身につくように努めている」と回答した教職員が80%以上 ○「家庭や地域で進んであいさつをしている」と回答した児童・保護者・教職員が80%以上	○「よい生活習慣が身についている」と回答した児童・保護者・教職員が100% ○「よりよい生活習慣が身につくように努めている」 教職員100% ○「家庭や地域で進んであいさつをしている」 児童96.4%・保護者100%・教職員100%	A	・あいさつ名人カードの周知徹底を図る。 ・チャレンジランキングと池田イベントの活性化を図る。 ・名人カードに取り組むための時間や教え合える環境を整える。 ・季節によって、体育科の指導計画と池田イベントを連動させて、意欲をもって取り組みやすいようにする。	○「よい生活習慣が身についている」 児童96.3%・保護者92.9% ○「よりよい生活習慣が身につくように努めている」 教職員100% ○「家庭や地域で進んであいさつをしている」 児童100%・保護者89.3%・教職員90%	・挨拶が、相手に伝わらなかつたり、気持ちの良いものになっていないかつたりするの、児童ができていないと思っているよりも、保護者の方や教職員の評価が下がっている要因だと考えます。今後は、挨拶のモデルを作り、指導やアドバイスを固りながら挨拶の活動を続けていく。	・自己評価は適切である。 ・高学年はできているが、まだ大きな声で挨拶ができていない児童もいる。 ・家庭や学校で大人が良い手本を示す必要がある。		
	体育科の授業、保健指導、外遊び等を通して、体力・健康づくりを推進する。	○「体力を高めようとしている」と回答した児童が80%以上 ○「体力・健康づくりに努めている」と回答した保護者・教職員が80%以上	○「体力を高めようとしている」 児童92.9% ○「体力・健康づくりに努めている」 保護者100%・教職員81.8%	A	○「体力を高めようとしている」 児童100% ○「体力・健康づくりに努めている」 保護者100%・教職員100%	・業間運動(短縄跳び「リズムなわとび」、長縄跳び「8の字連続跳び」、持久走「チャレンジ走」)が体力・健康づくりに役立っている。今後も継続して行っていく。 ・運営委員会主催で、「ボッチャ大会」を開いたことで、異学年との交流を図りつつ、ハラルドピック種目を知る機会を得ることができた。ただ、その分、チャレンジランキングや池田イベントに時間を割くことができなかったため、スケジュール管理をもっと綿密にしておく必要がある。特に12月以降は業間運動が多くなるので、時間の調整が必要。	・自己評価は適切である。 ・業間運動等の取組により、1回目のアンケート時期に比べ、体力が高めようとする意識や運動遊びに対する意識が高まっている。			
	大学・トップアスリートとの交流を通して、運動の楽しさを味わわせる。	○川崎医療福祉大学との連携5回以上実施 ○フアジャー岡山によるサッカー教室を2回実施	○川崎医療福祉大学との連携「大学生と遊ぼうデー」実施予定 ○フアジャー岡山によるサッカー教室2回実施予定	A	○「大学生と遊ぼうデー」の実施により、休み時間に運動遊びを行う児童が増えた。今後も継続する。 ○フアジャー岡山によるサッカー教室「16年目になり、ボールゲーム・サッカーの技能が上達している」 ○IPU環太平洋大学との連携「池田とどろんどろん」を実施	・今年度から始めた「大学生と遊ぼうデー」の実施により、休み時間に運動遊びを行う児童が増えた。今後も継続する。 ・フアジャー岡山によるサッカー教室「16年目になり、ボールゲーム・サッカーの技能が上達している」 ・自己評価は適切である。 ・大学と連携した取組を継続して行ってほしい。				
地域とも に ある 学 校 づくり	見守り隊、警察等と協力し、安全な登下校に努める。	○「安全に気をつけて歩いている」と回答した児童が80%以上 ○「登下校の安全に配慮している」と回答した保護者・教職員が80%以上	○「安全に気をつけて歩いている」 児童96.4% ○「登下校の安全に配慮している」 保護者100%・教職員100%	A	・1学期からの取組を継続する。 ○「安全に気をつけて歩いている」 児童100% ○「登下校の安全に配慮している」 保護者100%・教職員100%	・11月の交通事故撲滅月間には、特に見守りを強化し、安全な登下校を意識することができた。駐在所の方や地域の方の協力を身に感じることができた。 ・登校時に止まってくれた車への挨拶が定着してきて気持ちよい。	・自己評価は適切である。 ・児童は、安全を意識して登校できている。 ・学校も登下校の安全によく配慮している。			
	地域の教育資源(自然・文化財・施設)や学校支援ボランティアなどを活用した体験活動を充実させる。 【総社を愛する子供】	○「地域のことを学ぶことが好きだ」と回答した児童が80%以上	○「地域のことを学ぶことが好きだ」 児童89.2%	A	・2学期から学校支援ボランティアの支援による活動を行う。学校支援コーディネーターと連携を取り、より充実した活動にしている。 ○「地域のことを学ぶことが好きだ」 児童100%	・少しずつ再開できた活動もあった。 ・学習支援の依頼を快く引き受けてくださり、大変ありがたかった。 ・学習支援ボランティアコーディネーターの互が中心となって日程調整をしていただき、スムーズに計画することができた。 ・自己評価は適切である。 ・学習発表会での取組をテーマに行うなど、児童が地域を知ろうとしていることはとても良い。 ・教職員アンケートからも、先生方が地域に目を向けている事が良く分かる。				
	学校だより、学級通信、ホームページ等により、学校や児童の様子を積極的に情報発信する。	○「学校や子どもたちの様子を積極的に発信している」と回答した保護者・教職員が80%以上	○「学校や子どもたちの様子を積極的に発信している」 保護者100%・教職員100%	A	・1学期からの取組を継続する。 ○「学校や子どもたちの様子を積極的に発信している」 保護者100%・教職員100%	・活動ができずに、「ボランティアだより」の発行が年1回となっている。ホームページの更新や校内の掲示は少しずつ更新できている。 ・徐々に活動ができるようになってきたが、まだまだ感染症に関して注意が必要である。そのような状況の中、気持ちよく学校に来て学習活動をしていただくことはとてもうれしく思う。活動の様子を3月の「ボランティアだより」で伝えていきたい。	・自己評価は適切である。 ・学校だよりやホームページにより、学校からの発信はよくできている。 ・英語体育特区としての成果の発信を。			